



東北公益文科大学  
Tohoku University of  
Community Service and Science

# 専門演習選択ガイドンス

---

2 0 1 6



# 目 次

専門演習選択に伴う留意事項	1
平成28年度専門演習選択フローチャート	3
開講教員一覧	4
公開授業日程表	5
シラバス一覧	
[地域経営系]	
{経営コース}	
平尾 清	6
三木 潤一	7
新任(会計学分野)	8
{政策コース}	
阿部 公一	9
和田 明子	10
内藤 悟	11
斉藤 徹史	12
{地域福祉コース}	
澤邊 みさ子	13
佐野 治	14
武田 真理子	15
竹原 幸太	16
小関 久恵	17
[交流文化系]	
{国際教養コース}	
森 彰夫	18
呉 衛峰	19
松田 憲	20
狩野 晃一	21
スルトノフ ミルゾサイド	22
菅井 マリー	23
{観光・まちづくりコース}	
伊藤 眞知子	24
温井 亨	25
呉 尚浩	26
渡辺 暁雄	27
松山 薫	28
[系外]	
玉本 英夫	29
広瀬 雄二	30
神田 直弥	31
西村 まどか	32
古山 隆	33
遠山 茂樹	34
山本 裕樹	35
白旗 希実子	36

# 専門演習選択に伴う留意事項について【重要】

## 1 専門演習の内容（必修科目）

専門演習Ⅰ：各自が関心を抱き、設定する研究テーマをもとに、指導教員を選択・決定する。年間を通して現地調査や専門文献の探索・論読による課題の発見や分析、さらに口頭発表、レポート作成などを織り交ぜて専門知識を深めつつ、自らの卒業論文のテーマを確定する。

専門演習Ⅱ：専門演習Ⅰに引き続き、確定した卒業論文のテーマを中心に、個人指導・グループ指導をうけ、あわせて口頭発表やレポート作成を繰り返して卒業論文を完成する。

## 2 専門演習選択の考え方、進め方

① 専門演習は必修科目で、通年の科目となっています。専門演習Ⅰは3年次、専門演習Ⅱは4年次に履修することになります。専門演習Ⅰを修得しないとⅡを履修することはできません。3年次に専門演習Ⅰを修得しないと4年間で卒業できなくなります。

② 専門演習は1つだけ選択し、2年間継続して同じ専門演習（同一の教員の演習）を履修することを原則とします。

③ 専門演習選択にあたっては、自身が所属する系(コース横断可)または「系外」から選択してください。

④ 各専門演習のシラバスを必ず良く読んでから選択にのぞんでください。

⑤ 各専門演習を担当する教員ごとに定員を設定しています。したがって、定員を超えて希望がある場合は、選考のうえ履修者を決定します。選考方法は、各教員によって異なります。詳しくは、シラバスを参照してください。

また、希望者が定員以内の場合でも、希望者の興味・関心を確認するため、必ず希望する教員と面談を行ってください。

⑥ 専門演習選択の参考とするため、次のとおり公開授業を実施します。興味や関心のある専門演習を積極的に見学するようにしてください。また、オフィスアワーなどを活用して、自分が卒業論文のテーマとしたいことと指導する教員の研究内容、専門演習の進め方などを担当教員と十分に相談してください。その際、1人の教員だけではなく、広く様々な教員と相談し、話を聞いてみてください。

《専門演習公開授業》

実施期間： 11月19日（木）～12月3日（木）の各授業時間

時間割等： 資料5 ページ参照

実施内容： 3年生又は4年生の実際の授業を見学できます。

⑦ 以上①～⑥を踏まえて、下記日程までに第1次希望を提出します。第1次希望の専門演習が選外となった場合は、定員に満たない専門演習のなかから、再度定められた期日まで第2次希望を提出します。以下、専門演習が決まるまで続けます。（各専門演習の定員状況は掲示によりお知らせします。）

⑧ 実際に専門演習の履修登録をする時期は来年4月になりますが、来年4月時点での

専門演習の変更は認めません。

### 3 専門演習の履修制限

2年次終了時点で、3年次進級要件を満たしていない場合は、「専門演習Ⅰ」を履修できません。この場合、希望した専門演習は無効となり、次年度に改めて希望を提出して決定します。

### 4 専門演習の変更

決定後の専門演習の変更は、原則として認めません。ただし、特段の事情がある場合には、担当教員、または教育推進委員に相談してください。

### 5 休学者、編入生の対応

休学者および3年次への編入生の専門演習選択は、その状況を踏まえて、別途選考等を行い、決定する予定です。

### 6 長期留学者の対応

3年次以降、海外の大学等へ6ヵ月または1年の留学を行う者は、「専門演習(留学)」を履修することにより、4年間で卒業が可能になります。

専門演習(留学)Ⅰa、Ⅰb、Ⅰc、Ⅱのうち、専門演習(留学)Ⅱは必修です。専門演習(留学)Ⅰa、Ⅰb、Ⅰcは選択必修とし、留学期間に応じて1科目2単位、2科目4単位を修得します。専門演習の単位(合計8単位)の一部を修得しないことにより卒業に不足する単位については、専門科目または発展教育科目から修得します。

詳しくは「履修ガイド」18ページを確認してください。

### 7 今後のスケジュール

① 別紙「専門演習選択 志望理由書」に希望理由を記載して提出してください。(学籍番号、氏名、連絡先なども忘れずに記載してください。)

**第1次希望提出期限 平成27年12月4日(金) 17:00 厳守**

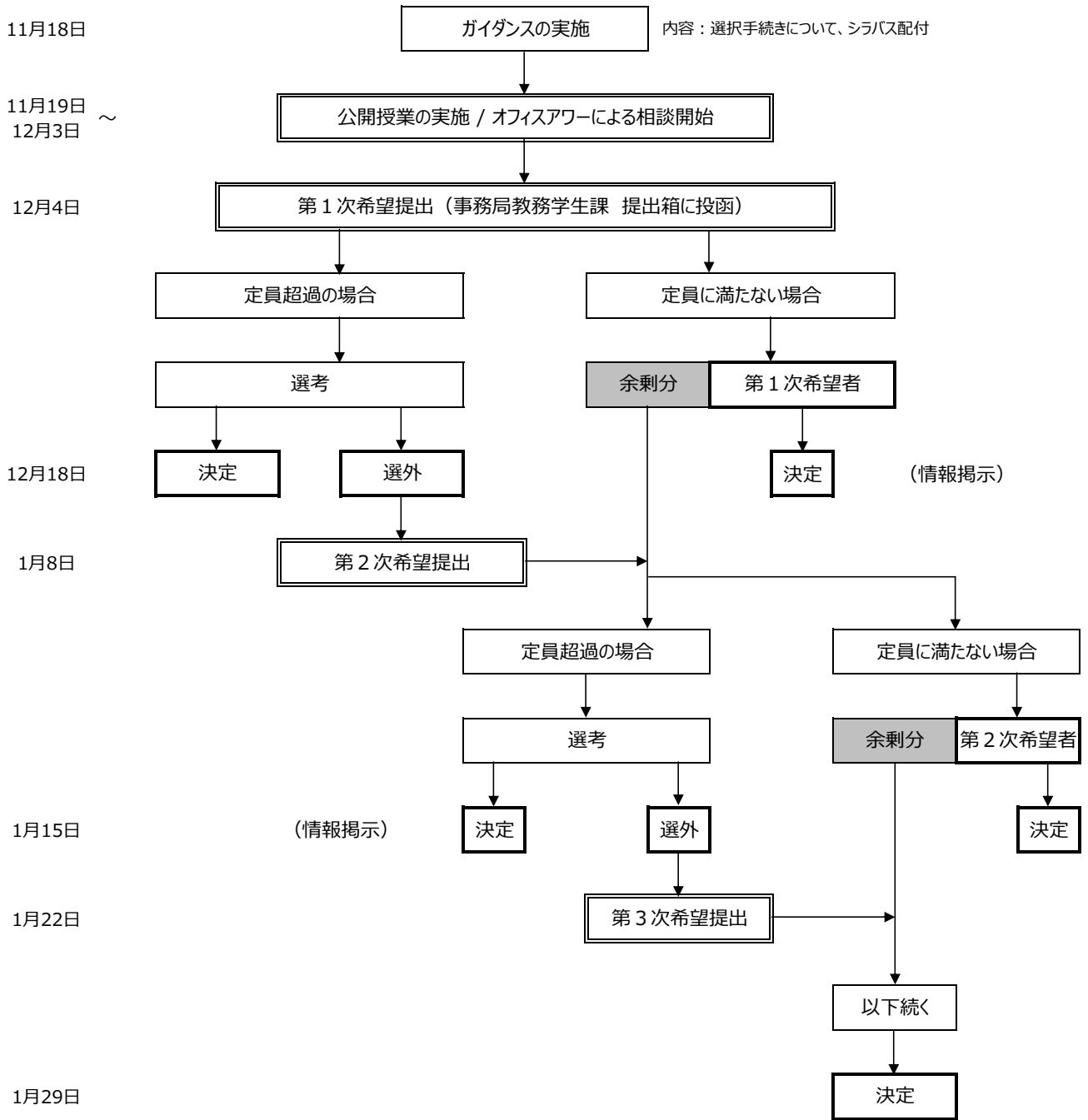
期限まで提出しなかった場合は、第1次希望から外れますので、注意してください。

② 今後のスケジュールは、次ページ「平成28年度専門演習選択フローチャート」により実施しますが、日程が変更になる場合があります。その際は掲示によりお知らせしますので、情報を良く確認するようにしてください。

### 8 教育推進委員の教員

神田 直弥 教授(委員長)、阿部 公一 教授(副委員長)、温井 亨 教授、呉 衛峰 教授、鎌田 剛 准教授、三木 潤一 准教授、白旗 希実子 講師

# 平成28年度専門演習選択フローチャート



※ 1 日程については、集計状況等により若干変更になる場合があります

# 平成28年度 専門演習 一覧

	コース名	教員名	定員	公開授業 ※次頁参照			
				曜日・時限	教室	備考	
地域経営系	経営	平尾 清	8	木・6	212		
		三木 潤一	8	月・3	E-6	個人研究室にて個別相談	
		新任(会計学分野)	4				
	政策	阿部 公一	8	木・5	210		
		和田 明子	8	月・5	203		
		内藤 悟	8	月・4	共同研究室C		
		斉藤 徹史	8	火・5	208		
	地域福祉	澤邊 みさ子	8	月・5	202		
		佐野 治	8	火・5	共同研究室A		
		武田 真理子	8	月・5	207	11月26日(木)のみ※月曜振替日	
		竹原 幸太	8	木・5	211		
		小関 久恵	8	月・5	210		
交流文化系	国際教養	森 彰夫	4	月・5	共同研究室C		
		呉 衛峰	4	月・6	211		
		松田 憲	4	火・5	共同研究室I		
		狩野 晃一	4	火・5	共同研究室H		
		スルトノフ ミルソサイド	4	金・3	B-1	個人研究室にて個別相談	
		菅井 マリー	4	火・5	212		
	まち観 づくり	伊藤 眞知子	5	火・5	203		
		温井 亨	5	火・3	211		
		呉 尚浩	5	火・5	202	11月24日5限、12月1日6限	
		渡辺 暁雄	5	火・5	210	11月24日公開	
		松山 薫	5	金・4	共同研究室C		
	系外	情報特別選抜	玉本 英夫	5	月・5	208	11月26日5,6限101教室にて合同発表会
			広瀬 雄二	5	火・5	201	11月26日5,6限101教室にて合同発表会
			神田 直弥	5	火・5	共同研究室F	11月26日5,6限101教室にて合同発表会
			西村 まどか	5	月・5	共同研究室B	11月26日5,6限101教室にて合同発表会
IT特選 特別選抜		古山 隆	5	月・4	共同研究室E		
リベラル アーツ		遠山 茂樹	5	火・4	共同研究室E		
		山本 裕樹	5	月・5	212		
	白旗 希実子	5	火・5	207			

# 専門演習選択公開授業日程表

2015年11月

月	火	水	木	金	土	日
26	27	28	29	30	31	1
2	3 文化の日	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
		専門演習ガイダンス	ゼミ公開開始 木1回目 平尾/6限/212 阿部/5限/210 竹原/5限/211	金1回目 スルトノフ/3限/ B-1 松山/5限/共研C		
23 勤労感謝の日	24 火1回目	25	26	27	28	29
	齊藤/5限/208 佐野/5限/共研A 松田/5限/共研I 狩野/5限/共研H 菅井/5限/212 伊藤/5限/203 温井/3限/211 呉(尚)/5限/202 渡辺/5限/210 広瀬/5限/201 神田/5限/共研F 遠山/4限/共研E 白旗/5限/207		★月曜振替日 月1回目 三木/3限/E-6 和田/5限/203 内藤/4限/共研C 澤邊/5限/202 武田/5限/207 小関/5限/210 森/5限/共研C 呉(衛)/6限/211 古山/4限/共研E 山本/5限/212 情報特別プロジェクト 発表会/5.6限/101	金2回目 スルトノフ/3限/ B-1 松山/5限/共研C		
30 月2回目	1 火2回目	2	3 木2回目	4	5	6
三木/3限/E-6 和田/5限/203 内藤/4限/共研C 澤邊/5限/202 小関/5限/210 森/5限/共研C 呉(衛)/6限/211 玉本/5限/208 西村/5限/共研B 古山/4限/共研E 山本/5限/212	佐野/5限/共研A 松田/5限/共研I 狩野/5限/共研H 菅井/5限/212 伊藤/5限/203 温井/3限/211 呉(尚)/6限/202 広瀬/5限/201 神田/5限/共研F 遠山/4限/共研E 白旗/5限/207		平尾/6限/212 阿部/5限/210 齊藤/6限/209 竹原/5限/211	★専門演習第1次希望 提出期限		



関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内				○
	他地域				○

《経営コース》

教員氏名	平尾清	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	マーケティングの知識を生かして『地域の課題を解決するためのプロジェクトを生み出し運営していく実践力』の育成を目指していきます。		
この専門演習の ねらい・到達目標	<p>マーケティングは、実際にプロジェクトを創造し実行していくことに、醍醐味があります。</p> <p>この専門演習では”マーケティング提案力養成編”として、自分が興味を持っている分野にマーケティングを生かしたプロジェクトを生み出す能力の開発を目指していきます。</p> <p>限られたリソースと限定された機会（時間/予算）を最大限に生かし、実際のケースに対する提案を作成していく能力の獲得がこの専門演習のテーマです。</p> <p>演習では、Facebook等のソーシャル・メディアも活用し、チームとしてプロジェクトをマネジメントする際に必要となるコミュニケーション・スキルの確立も目指します。</p>		
この専門演習の 運営方法	<p>地域の課題や個人のテーマ別に、具体的なプロジェクトを個人やグループ毎に立案し、その運営を実施していきます。</p> <p>社会人や会社などのサポーターの支援も得ながら、実際にプロジェクトの成果ができるように、PDCAサイクルも活用し適宜プロジェクト評価を実施しながら進めていきます。</p> <p>社会に出てから役立つ、コミュニケーション能力、チームワーク、想像力、そしてリーダーシップのスキルが身に着くことを重視した運営スタイルで実施していきます。</p>		
選択できる学生の 所属コース	所属する系(コース横断可)または系外から選択可能。他系からは選択不可。		
選考方法	専門演習へのESと個別面談により、選別します。		
成績評価の 方法と基準	プロジェクトの運営スキルとプロジェクト成果、そしてチームメンバーからの評価を加味した総合的な視点から成績評価を実施します。		
関連科目	庄内経営者塾、マーケティング論		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)			

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域		○	○	

《経営コース》

教員氏名	三 木 潤 一	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	<p>公共部門と民間部門の役割分担</p> <p>企業が活動する場である「市場」や「ゲームの状況」について分析し、公民連携や民間活力導入をはじめ今日的な政治経済問題について考える。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>なぜ、警察や消防は株式会社で経営できないのか？なぜ、道路建設は政府の仕事なのか？なぜ、鉄道やバスには公営と民営があるのか？なぜ、水道は有料なのに家庭ごみの処理は無料なのか？本専門演習では、このような簡単には答えられない公共部門と民間部門の役割分担の問題に関する検討を行い、以下の3点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の重要な概念である資源配分の「効率性」と所得分配の「公平性」を理解できるようになる。</li> <li>2. 「市場の失敗」や市場で決定される所得分配、またはゲームの状況に対する政府の適切な介入について理解できるようになる。</li> <li>3. 行財政改革などの今日的な政治経済問題を、自らの問題として考えることができるようになる。</li> </ol>		
この専門演習の運営方法	<p>上記到達目標を達成するためには、検討課題に対し能動的に取り組む必要がある。そのための舞台として、学外ゼミなどと合同でディベートや発表を行う機会を設定する。ディスカッションする場を多くもつことで、証拠に基づき考える力の養成を図る。</p> <p>具体的には、1)基本的な概念・理論の把握、2)ディベートや発表するテーマに応じた文献・データの収集およびヒアリングの実施、3)文献・データ・ヒアリングに基づく分析、4)レジュメ・スライドの作成、5)本番でのディスカッションといったプロセスを通して、自分の中で、また仲間や学外ゼミと議論する中で考え、最終的にレポートを仕上げていく。統計資料については、パソコン実習を通して分析の方法を学ぶ。</p>		
選択できる学生の所属コース	経営コース 政策コース 地域福祉コース		
選考方法	<p>最大受入人数を超えた場合は、個別面接により選考する。履修希望者は、本専門演習担当者オフィス アワーの指定日(11月26日(木)3時限(月曜振替日)・11月30日(月)3時限)に個人研究室(E-6)を事前訪問することが望ましい。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>レポート(前期末と後期末を予定)と授業時間の平常点で評価する。評価割合は、前者が40%、後者が60%とする。なお、平常点の評価は、出席状況・宿題・授業への積極的参加・ディベートや発表などを総合的に勘案して行う。</p>		
関連科目	<p>三木担当科目：「経済学」「ミクロ経済学」「経済学特論 a」「地方財政論」</p> <p>その他科目：数学・統計学・情報処理に係る科目</p>		
その他(大学院との関係や履修上の注意点等)	<p>特にディベートや発表の準備、レポート作成では、授業時間外の努力を求める。また、数学・統計学・情報処理の知識は特に前提としないが、支援するので本専門演習と並行して意欲的に取り組む姿勢を期待する。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内				
	他地域				

《経営コース》

教員氏名	新任（会計学分野）	最大受入人数	4名
テーマ（予定）	未定		
この専門演習の ねらい・到達目標	未定		
この専門演習の 運営方法	未定		
選択できる学生の 所属コース	地域経営系の各コース		
選考方法	未定		
成績評価の 方法と基準	未定		
関連科目			
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)			

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域		○	○	○

《政策コース》

教員氏名	阿 部 公 一	最大受入人数	8 名
テーマ（予定）	<p><b>政策研究</b></p> <p>○社会保障・公的年金・税財政の分野に関する時事問題研究及び事例研究を行い、時事解説ポスター等の成果物を全員参加で作成します。</p> <p>○公益大生を対象に、公的年金に関するアンケート調査の実施と取りまとめを全員参加で行うことを考えています。</p> <p>○卒業論文のテーマに関しては、各自の興味に応じて、社会保障・公的年金・税財政の分野から選んでください(同上分野に関する地域を事例にしたテーマも歓迎いたします)。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>○社会保障・公的年金・税財政分野における専門性を高めていきます。</p> <p>○最終的に卒業論文を完成させます。</p> <p>○アンケート調査などの共同作業を通じて、職業的社会人に必要なチーム力などのスキルも身に付けます。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>○全員参加型の方式で進めていきます。</p> <p>○アクティブ・ラーニング方式</p>		
選択できる学生の所属コース	政策コース		
選考方法	<p>○個別面談により決定(「専門演習選択志望理由書」を教務学生課に提出後)。</p> <p>○ミスマッチを防ぐため、事前に相談したい方は、月 5 限のオフィスアワーの時間帯か、月～金 6 限の時間帯に研究室(h5)にお越しください(不在の場合は申し訳ありません)。</p> <p>○メールアドレスは、koichi@koeki-u.ac.jp です。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>○毎回のゼミへの積極的な参加の度合いを重視して評価します。</p> <p>○4年生に対しては、卒業論文に対する取り組み及びその成果を重視します。</p>		
関連科目	社会保障論Ⅰ・Ⅱ、公的年金論、政策入門		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)	<p>○卒業後の進路をかなえるために、公務員志望者、就職志望者、公民科目教員志望者等に対して、支援・アドバイスを行っていきます。</p> <p>○上記の関連科目から、1科目以上履修している方を望みます。</p> <p>○廊下に掲示してあるゼミポスターは、以前の古い内容です(新しい内容に差し替えることができません)。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○		
	他地域		○		

《政策コース》

教員氏名	和田明子	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	<p>政治学・行政学・地方自治論</p> <p>○3年次の共通テーマ：市民参加（政治・行政・地方自治に若者の意見を反映するにはどうしたらよいか？）</p> <p>○4年次の卒論テーマ：政治学・行政学・地方自治論の範囲内で自由</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>現代の政治・行政・地方自治を巡る諸問題への理解を深め、特に公益を実現する政治・行政・地方自治のあり方について自分なりの意見を持てるようになる。</p>		
この専門演習の運営方法	<p><b>【3年次】</b></p> <p>○高橋秀行・佐藤徹『新説 市民参加（改訂版）』公人社、2013年（3800円＋税）を輪読することにより、共通テーマへの理解を深める。</p> <p>○新聞・雑誌記事を用いたグループディスカッションを行う。目的は、1) 社会の諸問題への理解を深める、2) 卒論のテーマを考える、3) 就職活動に備える、ことである。</p> <p>○市議会傍聴や選挙時の公開討論会開催等、機会を捉えて「市民参加」を実践する。</p> <p>○夏休み明けまでに卒論テーマを決定する。</p> <p>○2013年度から、首都大学東京・東海大学・福島大学・岩手県立大学・名古屋商科大学と合同でゼミ合宿を行っている。2013年度の合宿テーマは「震災復興政策」、2014年度は「リノベーションによるまちの活性化」であった。</p> <p><b>【4年次】</b></p> <p>○「卒論中間報告」と「新聞・雑誌記事を用いたディスカッション」を繰り返す。</p>		
選択できる学生の所属コース	<p>経営、政策、地域福祉の各コース選択可能。ただし、希望者多数の場合には「政治学」「行政学」「地方自治論」の履修者を優先する。</p>		
選考方法	<p>1. 志望理由書に、①大学入学から現在までをどのように過ごしてきたか（学業・サークル・アルバイト・ボランティアなど何でもよい）、②当ゼミを志望する理由（どんな勉強をしたいか）、③将来の夢、を書くこと。</p> <p>2. 定員オーバーの場合は、志望理由書の内容、関連科目の履修状況（出席・成績を含む）、面接により選考する。</p>		
成績評価の方法と基準	<p><b>【3年次】</b> 宿題の取組状況、ディスカッションの参加度、出席等を総合評価する。</p> <p><b>【4年次】</b> 上記に加え、卒業論文の出来具合を評価する。</p>		
関連科目	<p>「政治学」「行政学」「地方自治論」ほか政策系の科目</p>		
その他（大学院との関係や履修上の注意点等）	<p>「受身」ではなく自ら主体的に行動する人、何か社会に貢献したいと考えている人を歓迎する。一緒に政治・行政・地方自治と公益の関係について考えていきたい。男女比は半々位になることを期待している。テーマソングは「世界に1つだけの花」♪</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○		○	○
	他地域			○	○

《政策コース》

教員氏名	内 藤 悟	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	地方自治体の環境政策・まちづくり政策と条例		
この専門演習の ねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境政策・まちづくり政策に係る条例を対象として、地方自治体の政策実現のための条例の特徴、課題を明らかにする。</li> <li>・地方自治体の環境問題等の事例について法的に検討を行う。</li> <li>・文献調査、報告、文書作成などについての能力を総合的に高める。</li> </ul>		
この専門演習の 運営方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体の環境政策・まちづくり政策の具体的な事例についての資料を通じて、地方自治体の政策をより詳しく学ぶ。（関連施設について現地見学も予定）</li> <li>・演習を通じて自分に関心のある政策分野を探して卒業論文作成につなげる。</li> </ul>		
選択できる学生の 所属コース	・経営、政策、地域福祉の各コース。		
選考方法	・面接による。		
成績評価の 方法と基準	・レポート作成、平常時の発言等を勘案して評価する。		
関連科目	・憲法、行政法、環境法、地方自治法		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	・憲法、行政法、環境法、地方自治法のいずれかの科目について単位取得済みもしくは現在履修中であること。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《政策コース》

教員氏名	斉藤徹史	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	法学における基本判例を学ぶ		
この専門演習の ねらい・到達目標	<p>法律を学ぼうと、知っておかなければいけない判例は数多くあります。卒業してから、「大学では法律を勉強した」と自信をもっていうことができるように、この演習ではそうした基本的な判例を網羅的に学びます。</p> <p>演習で取り上げる判例は、公務員試験で問われるものにも目を配って選定します。</p>		
この専門演習の 運営方法	<p>演習前に参加者が読んでおくべき判例（10～15判例）を教員から提示しますので、全員に事前学習を行なってもらいます。演習ではこの中から2つの判例を取り上げて、それぞれの担当者が事案と判決の概要を発表することになります。その後、発表者と参加者で当該判例について議論します。</p>		
選択できる学生の 所属コース	地域経営系の3コース		
選考方法	<p>参加希望者には面談を行ないませんので、事前に連絡してください（tsaitou@koeki-u.ac.jp）。希望者数が最大受入可能人数を超過した場合には、選考を行ないません（詳細は後日掲示します）。</p>		
成績評価の 方法と基準	<p>演習への参加意欲、事前学習の状況、発表内容、出欠などを総合的に判断して評価します。</p>		
関連科目	<p>法律科目は必ず履修するようにしてください。</p>		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	<p>判例の事前学習が不可欠となるので、注意してください。</p> <p>参加者を公務員試験受験者に限定するわけではありませんが、演習を進めるにあたっては公務員試験対策に比重をおく可能性があることに留意してください。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域		○	○	○

《地域福祉コース》

教員氏名	澤 邊 みさ子	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	社会福祉の現状及び現行制度における問題について考察する。		
この専門演習の ねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の制度と現状を理解する。</li> <li>・社会福祉の課題の発見し、解決を目指すための手法を身につける。</li> </ul>		
この専門演習の 運営方法	<p>以下のような内容で進めていきます：</p> <p><b>【3年次】</b></p> <p>① 社会福祉の基本的な文献を全員で読み進める（担当者を決めて発表、それをもとに討論を行う）。</p> <p>② 新聞等を活用し、社会福祉の現状について考える。</p> <p>③ ①・②と平行して、ゼミ生合同で（場合によってはグループに分かれて）調査研究を行う（テーマは、ゼミ生の関心事に沿って決定する）。</p> <p>④ 後期より卒業論文のテーマを決め、論文作成の計画を立て、調査研究を開始する。</p> <p><b>【4年次】</b></p> <p>中間発表（3～4回を予定）、個別指導などを通じて卒業論文を完成させる。</p>		
選択できる学生の 所属コース	地域経営系の3コース		
選考方法	<p>入ゼミ希望者が最大受入人数よりも多い場合は、面接によって選考を行う予定。</p> <p>なお、希望調査票の「希望理由」の欄に、福祉に関することで、現在、どのような問題に関心があるか、についても書いてください。</p>		
成績評価の 方法と基準	<p>3年次は出席状況、参加状況をもとに評価を行う。</p> <p>4年次は卒業論文に、参加状況などを加味して評価を行う。</p>		
関連科目	<p>「社会福祉学 a・b」「社会保障論 I・II」「障害者福祉論」「地域福祉論 a」「公的扶助論」を履修していることが望ましい。</p> <p>その他の関連科目として、「高齢者福祉論 a・b」「児童福祉論」「地域福祉論 b」など。</p>		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	<p>担当者の専門は障害者福祉分野ですが、受講生の関心がそれ以外の分野（例えば、高齢者や児童、地域福祉など）のテーマであっても構いません。受講生の興味・関心によって分野を特定する可能性もありますが、大事なのは、調べ、考え、互いに意見を交換しながら、社会福祉についての理解を深め、「私が望む福祉」「よりよい福祉」とは何か、その実現のためにはどうしたらよいかを追求していくことだと考えています。地域福祉コースの学生以外でも、社会福祉の問題に関心がある人なら歓迎します。ゼミ活動への積極的な参加を期待します。</p> <p>事前に相談等したい場合は、研究室またはメール（sawabe@koeki-u.ac.jp）に連絡ください（研究室はA-4、オフィスアワーは月曜日3時限（オフィスアワー以外の時間も対応可））。</p>		



関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域		○	○	○

《地域福祉コース》

教員氏名	佐野 治	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	<p>テーマ「<b>診断主義ケースワーカーの養成</b>（精神分析を用いた個別支援と地域支援）～新たな社会問題と言われる、認知症、虐待、DV、孤独死、ゴミ屋敷、うつ、自殺、アルコール依存、発達障害、パーソナリティ障害等に対応できる知識と技術を習得し、卒業までに<b>手に職（理論と面接力）を付けよう！</b>～」</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>あらゆる人、あらゆる相談に対して、理論や学説を用いて、効果的な面接（個人変容面接）ができるようになる。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>専門演習全体（2年間）を教員が主導し、必ず毎週、知識と技術の習得のための学習を行う。</p> <p>※あらかじめ決められた①援助理論の解説、②面接技術のトレーニング、③自己分析のための心理テスト、つまり、学生は面接に必要な心理学、社会学の知識を得るとともに、ロールプレイによって技術を習得し、心理テストによって自己分析をする。また実際の面接場面（教員が行う面接）に同席し、学生の能力次第で実践も行う。</p> <p>※専門演習で輪読、卒論、発表、討論はしない。卒論は演習とは別に指導する。</p>		
選択できる学生の所属コース	<p><b>地域福祉コースでかつ社会福祉士国家試験の現役合格を目指す者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や国家試験を受けるかどうかを迷っている学生は、選択できない。</li> <li>・福祉関連へ就職を考えていない学生は、選択できない。</li> </ul>		
選考方法	<p>ゼミ説明会の開催（日時指定・昼休み、研究室のドアに掲示）→個別面接（日時指定・昼休み、研究室のドアに掲示）→ゼミ登録者発表（すべての学生の面接終了後の翌日、研究室のドアに学籍番号を掲示）→登録の申請（登録者発表日）→登録（登録者発表日当日）</p> <p>※ゼミ説明会に出席できない場合、個別面接は受けられない。ゼミの内容は説明会（40分程度）で詳細に話す。</p> <p>※個別面接を受けた者の中からのみ登録者を発表する。</p> <p>※個別面接ではゼミに入りたい動機・意欲・将来の展望を述べること。その内容等から判断する。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>① 出席、②個別支援計画作成試験、③面接の実技試験</p>		
関連科目	<p>社会福祉士関連科目</p>		
その他（大学院との関係や履修上の注意点等）	<p>本学の大学院に進学して、さらにスキルを磨いてほしい。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域		○	○	

《地域福祉コース》

教員氏名	武田 真理子	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	<p>誰もが安心して暮らせる福祉まちづくりの研究</p> <p>現在、私たちは、人口構造の変化、働き方や家族のあり方の変容など、大きな社会構造の変化の中に生きている。私たちの生活を支え合う社会福祉・社会保障のしくみも、中央集権的な福祉国家型から、個々の生活に寄り添った地域福祉型への転換を迫られている。私たち自身が生涯、安心して暮らせる地域社会を形成して行くためには、行政、専門職者や特定の「当事者」だけでなく、住民が一体となって福祉まちづくりに取り組むことが求められており、本専門演習ではその方法について研究することを目的とする。</p> <p>2016年度は、2008年度～2015年度の研究活動実績を踏まえ、「住民主体の災害時要援護者支援のあり方に関する研究プロジェクト」をとおして、上記課題について考える。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>福祉まちづくりが求められる社会的な背景とその推進方法について、庄内地域、東日本大震災被災地域等をフィールドに主体的に学ぶ。</p> <p>研究成果をもとに、地域住民を対象とした福祉まちづくり推進のためのプログラムを開発し、実際に地域でワークショップ等を実践し、その評価を行うことを3年次の目標とする。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>3年次は全員が「住民主体の災害時要援護者支援のあり方に関する研究プロジェクト」のメンバーとなり、文献調査、被災地訪問調査、その他フィールドワーク、ワークショップ開催等の手法により共同研究を進める。1年間の具体的な達成目標、計画、活動の進め方についてはゼミ員同士で話し合いを重ね、決めて行く。</p> <p>4年次は個別指導、報告会などをとおして、卒業論文を完成させる。</p>		
選択できる学生の所属コース	経営、政策、地域福祉の各コース。		
選考方法	第一次希望書提出後、希望人数が定員を超える場合は、全希望者を対象に個別面談を行う。（面談日時については後日指定・連絡する。）		
成績評価の方法と基準	3年次はプロジェクト研究に対する貢献、輪読・研究発表の内容等に基づいて評価を行う。4年次は卒業論文をもとに評価を行う。		
関連科目	社会福祉だけでなく、公益学、地域づくり・まちづくりに関する科目全般。		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)	<p>ゼミはできるだけ学生主体で運営をし、ゼミ生一人ひとりにとっても意味のある学習活動、社会活動に取り組みたいと考えています。ゼミ生だけでなく、本学大学院生、学外の関係機関や地域住民の方々と一緒に学び合うこともあります。</p> <p>尚、希望者はゼミ見学（11月26日の5時限）への参加をお願いします。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《地域福祉コース》

教員氏名	竹原幸太	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	<p>子ども・青少年問題を読み解く</p> <p>日本子どもを守る会編『子ども白書』（毎年発行）は、いのちと健康、医療、家庭、福祉、司法、学校、地域、文化、メディア、環境の10領域から子どもの問題を総合的に考察している。本演習では、『子ども白書』を手がかりに、各自関心のある領域から、子どもが成長発達していく上での課題とその対応を研究する。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>一般的に学問は、当該学問の歴史、理論・思想、研究方法、実践動向、国際動向（比較研究）等が体系化され構成されている。したがって、本演習でも設定した研究テーマをいかなる角度から研究するのかを明確化し、同角度の先行研究を分析した上で、オリジナルなアイデアを創出することを到達目標とする。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>3年前期－日本子どもを守る会編『子ども白書 2015』（本の泉社）から関心のある論文を各回学生に報告してもらおう。その上で、自分の研究テーマを設定する。</p> <p>3年後期－各自設定した研究テーマの基礎資料やフィールドワークで掴んだ情報を検討し、各回学生に報告してもらい卒論の目次（骨格）を作成する。</p> <p>4年前期・後期－3年次の研究作業を整理し、形式を整えて文章化したものを各回学生に報告してもらおう。※ゼミ参加者の希望があれば英語文献にもトライする。</p>		
選択できる学生の所属コース	地域経営系の3コース（他系は選択不可）		
選考方法	<p>木5のゼミ見学後、学びの意識と教員の専門のミスマッチを防止するため、個別面談を実施する（takehara@koeki-u.ac.jpに連絡の上、個別面談の予約をとること）。担当教員の専門分野や書いた本については、大学HPや図書館で確認しておくこと（個別面談までに学びたいテーマの質問を持ってこることが好ましい）。人数が多い場合は、教育指導上、専門分野に近い者を優先する。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>毎回の出席を前提として、報告・質疑の態度を総合的に評価する。具体的には、報告の質（単なる感想文ではなく、先行研究と自分の意見の区分を行った上で報告出来ているか等）、報告者の報告内容を真摯に傾聴し、的確な質問を投げかけられているか等を評価基準とする（他の担当科目と同様、本演習では最低限の発話力と対話力が求められるので、事前に担当科目で授業イメージをもっておくこと）。</p>		
関連科目	<p>担当科目－児童福祉論、司法福祉論、哲学、倫理学、相談援助の理論と方法Ⅳ</p> <p>その他－教育学、法学（主に刑事法領域）、社会学（主に犯罪社会学及び社会病理学領域）、心理学（主に道徳性心理学領域）、生涯学習論（主に社会教育領域）</p>		
その他（大学院との関係や履修上の注意点等）	<p>もともとは教育学が専門だが、思春期の青少年問題（いじめ・非行等）を専門としているため、教育福祉論、司法福祉論、教育法学等の学際領域に関心を持っている。とはいえ、基礎科学がない中での応用学は不安定であるため、先ずは自分の基礎科学を固めて足腰を鍛えることを奨励する。テーマは子ども・青少年であるが、子どもが苦手な者、子どもを支援する大人側に関心がある者も歓迎する。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内			○	
	他地域			○	

《地域福祉コース》

教員氏名	小 関 久 恵	最大受入人数	8名
テーマ（予定）	<p><b>社会的つながりに関する考察</b></p> <p>現在の日本では社会関係の希薄化が指摘されている。無縁社会といった言葉もつかわれるようになり、高齢者の孤独死等に代表される問題も社会関係の断絶がもたらすとされている。他方、携帯電話を手放せない等の関係性への強迫的な意識、他者とのつながりに依存する実態も指摘されている。</p> <p>本演習では、社会的なつながりや、その不調和がもたらす問題について理解を深める中で、人間は社会関係に何を求めているのか、どのような関係性を必要としているのか理解する。また、多様な人間が社会で連帯して生きることについて考察していく。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間の欲求や権利としての社会関係（他者とのつながり）について理解し自分の言葉で説明できる</li> <li>・ 社会関係の不調和がもたらす問題について具体例を挙げて説明できる</li> <li>・ 各自の関心に沿って調べ、考え、書き、発表する力を養う</li> <li>・ 演習テーマや個人テーマに関して他者（ゼミメンバー・教員）と対話することで、幅広い視点から理解を深め、日常生活における身近な問題を含めた社会関係における問題に気づき・解決策を思考する力を養う</li> </ul>		
この専門演習の運営方法	<p>3年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習テーマに関連する文献の輪読を行い、ゼミメンバーや教員との対話を通して理解を深める。卒業論文執筆に向けて関心を絞り込む。</li> </ul> <p>4年次</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自設定したテーマについて卒業論文を執筆する。定期的に学習した内容を授業内で発表し、ゼミメンバーや教員との対話を通してさらに理解を深める（基本的には個別指導）。</li> </ul>		
選択できる学生の所属コース	<p>経営、政策、地域福祉の各コース。</p> <p>ただし、下記選考方法によって学生の関心領域の確認をおこなう。</p>		
選考方法	<p>希望者を対象に面談をおこなう。</p> <p>※関心が演習テーマ（予定）と合致しているか等</p>		
成績評価の方法と基準	<p>3年次は授業への参加や輪読・発表などにおける貢献状況、内容の理解度等をもとに評価をおこなう。4年次は卒業論文をもとに評価をおこなう。</p>		
関連科目	<p>社会福祉関連科目全般。公益学に関する科目。</p>		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)			

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域		○	○	○

《国際教養コース》

教員氏名	森 彰 夫	定 員	4 名
テーマ（予定）	国際関係、国際協力、多文化共生の諸課題		
この専門演習の ねらい・到達目標	国際関係、国際協力、多文化共生に関する基本的な知識を身に付け、実態や課題を理解し、実践する力をつけます。		
この専門演習の 運営方法	講義、専門書の輪読、ゼミ生による発表、ディスカッションを行います。		
選択できる学生の 所属コース	国際教養コース、観光・まちづくりコース。		
選考方法	教員の専門分野と学生の関心分野とのミスマッチを防ぐため、希望調査票を提出する前に研究室 C-5 を訪ねてください。履修希望者多数の場合は面接を行います。		
成績評価方法	3 年生は演習での発表、4 年生は卒業論文を対象に成績評価を行います。		
関連科目	「国際関係論」、「国際協力」、「多文化共生論」		
その他	インターネットで検索することによって個々の問題について情報を得ることも必要であるが、断片的な知識を得るだけで終わってしまうため、専門書を何冊も読み、体系的に勉強してほしい。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《国際教養コース》

教員氏名	呉 衛 峰	最大受入人数	4名
テーマ（予定）	中国近現代文学を読む  中国の近現代文学（短編小説、エッセイなど）を中国語で読み、その内容を通じて近現代中国の社会文化と歴史を理解し、中国語の語学力を向上させる。		
この専門演習の ねらい・到達目標	1、中国の近現代文化と歴史への基本的理解を得る。 2、辞書を借りて中国語の文章を読めるようになる。 3、感性を論理的に捉える方法を身につける。 4、具体的文学作品を理論的アプローチで分析して卒業論文をまとめる。		
この専門演習の 運営方法	1、中国近現代の短い文学作品をプリントで配り、輪読する。 2、各自は割り当てられた部分の読み方を調べ、日本語に翻訳し、発表する。 3、輪読した内容についてディスカッションする。		
選択できる学生の 所属コース	国際教養コース、観光・まちづくりコース。		
選考方法	登録する前に必ず面談に来てください。 面談時間はメールで予約してください。 wu@koeki-u.ac.jp		
成績評価の 方法と基準	出席、授業参加度、レポートなどで総合判断する。		
関連科目	中国語学留学。		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	なし。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《国際教養コース》

教員氏名	松 田 憲	最大受入人数	4 名
テーマ（予定）	異文化コミュニケーション		
この専門演習の ねらい・到達目標	本演習では、英語と日本語の文献を読み、論理的で説得力のある表現方法の習得をめざします。		
この専門演習の 運営方法	<p>上記テーマに関連した文献を、読み、調べ、書き、発表し、評価するという流れの中で、自分の関心のある研究テーマを絞り、論文に仕上げていくことを目標とします。</p> <p>3年次後期に、各自卒論のアウトライン、序論、本論の一部を完成させ、就活に集中できる環境を作ります。</p>		
選択できる学生の 所属コース	交流文化系に所属する学生		
選考方法	<p>① ゼミ希望者は、教務学生課に「<u>専門演習選択 志望理由書</u>」を提出する前に必ず担当教員を訪ね、志望動機やテーマなどを話し合うこと（木曜4限のオフィスアワー以外でも、相談していただければ面談日を調整します）。</p> <p>② 志望理由書の<u>希望理由の欄</u>に、「この専門演習を選んだ理由」と「この専門演習で深めていきたい自分のテーマ」の2点について、できるだけ詳しく書いてください。第一次希望の提出締め切りは12月4日です。</p> <p>3年次の4月以降に外国語科目Ⅰ～Ⅷの未修得科目が無いことが望ましい。</p>		
成績評価方法	出席、発言や質問による貢献度、発表、レポートなどを総合的に評価		
関連科目	短期語学留学、実践外国語、TOEIC（中級）、Advanced English Communication、Intensive ReadingⅠ・Ⅱ		
その他 （大学院との関係や 履修上の注意点等）	与えられた課題をこなすのではなく、自らテーマを見つけて学ぶなど、受講者の自律性を尊重したい。やる気のある人を歓迎します。質問のある人は気軽に研究室に来てください。“Stay hungry. Stay active.”		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《国際教養コース》

教員氏名	狩野 晃一	最大受入人数	4名
テーマ（予定）	<p>《英語の姿をつかまえる》</p> <p>この専門演習では英語という言語のあらゆる側面に光を当てて、あるいは近隣言語との比較から、その実態を浮き彫りにし、英語への理解を深めます。具体的には発音、文法、語彙、またはそれらの歴史に言及しながら観察します。また各時代の文学作品なども扱う予定です。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>英語を発音、語彙、文法、歴史など個々の項目から、言語学的にその特徴を探ります。この作業を通して英語という言語への理解を深めてもらいたいと思います。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>学生が主体となって調べ、書き、プレゼンテーション、ディスカッションをする方法をとります。必要な文献は事前に読み込み、ディスカッションが滞りなく進められるようにしておきます。また当然のことながら大量の読書を求めます。日本語だけでなく英語の文献も多く扱うこととなります。</p>		
選択できる学生の所属コース	<p>交流文化系（コース横断可）</p>		
選考方法	<p>担当教員との面談を通して行います。</p>		
成績評価の方法と基準	<p>演習への積極的参加、課題の精度、文献の理解度など総合的に判断して成績評価をします。</p>		
関連科目	<p>西洋文学史。</p>		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)	<p>特になし。</p>		



関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域		○	○	○

《国際教養コース》

教員氏名	スルトノフ	最大受入人数	4名
テーマ（予定）	International Economics 国際経済学		
この専門演習の ねらい・到達目標	<p>Learning the basic theory of international economics, economic thinking, analysis techniques and understanding of how the international economy works. The focus will be done on international economic relations of Japan, and the impacts of the global economic changes on the Japanese economy.</p> <p>国際経済学の基礎理論を習得し、経済学の考え方、分析手法、経済学的な視点から国際経済の仕組みを理解することを学ぶ。日本の国際経済関係、日本経済におけるグローバル経済の変化の影響を論じる。</p>		
この専門演習の 運営方法	<p>Basic theories and empirical data will be presented and the students will be taught how to discuss, analyze and summarize them. The seminar will be held in Japanese and English.</p> <p>国際経済に関する基礎知識を身に付けていく。少人数の学生が関心をもつテーマについて一緒に議論し意見交換をすることによって知識を深める。ゼミは日本語と英語で行う。</p>		
選択できる学生の 所属コース	International Course. Tourism Course. 国際教養コース、観光・まちづくりコース		
選考方法	Interview (if the number of applicants is more than 4) 学生数が4人以上の場合面接で審査します。		
成績評価の 方法と基準	Active participation 40%, thesis preparation 30% and presentation 30% 出席 40%、論文の準備 30%、プレゼンテーション 30%		
関連科目	International Economics, Asian Economy, World Economic Affairs, International Relations, International Cooperation, International Business 国際経済学、アジア経済論、世界の経済事情、国際関係論、国際協力論、国際ビジネス論		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)			

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	0			
	他地域				

《国際教養コース》

教員氏名	菅 井 マリー	最大受入人数	4名
テーマ（予定）	A global comparative cross-culture seminar class that studies the social norms and cultural constructs set in place within an individual country that govern the behavioral trends of its people. Differences in educational and public health standards, norms and procedures will be studied, discussed and understood within a culture framework that embodies a sociolinguistic and anthropological perspective.		
この専門演習の ねらい・到達目標	Students will learn how to explore diverse areas of research, and personal interest, within culture domestically and globally. They will learn how to compose an academic thesis and annotated bibliography in English. Students will learn to discuss and explore global culture and social infrastructure in depth and in English. Upon completion of the course students will be able to discuss social trends from a global viewpoint and develop solid arguments for their own personal opinions, beliefs and values.		
この専門演習の 運営方法	Guided tuition in how to research for related topics in English. How to write a thesis paper in English using APA format. How to create and develop an annotated bibliography. Weekly discussion and online work.		
選択できる学生の 所属コース	International Course. Tourism Course.		
選考方法	A short written explanation of about 500 words, why this course is interesting and useful for you. A statement of purpose.		
成績評価の 方法と基準	Grading is based on discussion, regular presentation, participation (60%) and final thesis (40%).		
関連科目	Social studies. Comparative culture. Public Health care. Global events. English.		
その他	Enthusiasm.		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内		○	○	○
	他地域				

《観光・まちづくりコース》

教員氏名	伊藤 眞知子	最大受入人数	5名
テーマ（予定）	<p><b>ジェンダーと家族・生活・地域</b></p> <p>地域における生活や家族をめぐる課題（とくに妊娠・出産・子育て等）をジェンダーの社会学の視点から探究し、いつまでも暮らしつづけられる魅力のある地域づくりのための解決策を考えます。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>研究室においては読み、考え、議論して、書くこと、フィールドにおいては聞き取り、記録することを身につけることをねらいとします。双方を往復することにより、社会現象を読み解き、地域課題解決に向けて提言する力、地域づくりを実践する力の獲得をめざします。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>テーマに関連した書物の輪読、各自のテーマに関する報告、新聞クリッピングおよびフィールドワーク（飛島など）を行います。運営は、話し合いながら進めていきます。夏休みに、3、4年合同のゼミ合宿を行う予定です。</p>		
選択できる学生の所属コース	観光・まちづくりコースおよび国際教養コース		
選考方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望提出前に必ず相談してください。</li> <li>希望者多数の場合は、面接により選考します。</li> </ul>		
成績評価の方法と基準	<p>演習における報告、期末レポートを中心に、毎回の演習への取り組みを加味して総合的に評価します。</p>		
関連科目	<p>ジェンダー論、情報発信・ファシリテーションの技法Ⅰ・Ⅱ 社会調査論</p>		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)	<p>大学院生と研究交流する機会を設けたいと考えています。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域		○	○	○

《観光・まちづくりコース》

教員氏名	温井 亨	最大受入人数	5名
テーマ（予定）	まちづくり、むらづくり、あるいは都市や農山漁村の風景の分析をテーマとします。前者は提案、振興策に比重を置いたテーマ設定です。それに対し、後者は調査、分析に比重を置いたテーマ設定です。卒論はどちらでも構いません。ただし、都市にせよ農村にせよ、近代的な姿に創りかえるのではなく、歴史的な町並み、風景を保全しながら将来計画を立てることが本研究室の基本的な考え方です。		
この専門演習の ねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的風景を保全する意味、意義について理解し、人に説明できるようになること。</li> <li>・ 自然美でも芸術でもない、生活・生業の結果として歴史的に形成された暮らしの風景の特徴を理解すること。</li> <li>・ ヨーロッパの都市や田園風景の保全の歴史、日本の町並み保存運動、中心市街の役割、文化的景観等を理解すること。</li> </ul> <p>実際に現場に出て、地域の人達と議論し、協働作業を行い、汗を流す実践活動をとおして、机上の理論としてだけでなく、現実の問題に対処できるようになること。</p>		
この専門演習の 運営方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 酒田市、鶴岡市、庄内町等における中心市街地と農村再生の実践活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト型応用演習2単位以上を修得してもらいます。同演習と連動したテーマを専門演習でも扱います。</li> <li>・ 各自、中心市街、あるいは農村を1か所フィールドに選び研究します。その結果は、下記の成績評価にある方法で発表し、評価します。</li> <li>・ 関係する書籍、文献を読む。ビデオを見ます。</li> </ul> </li> <li>● 社説を読む(就活に備えて) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み書きの基礎力をつけ、社会常識を身につけます。</li> </ul> </li> <li>● インターンシップ2単位を修得してもらいます。</li> <li>● 湊町さかた探検隊、ぶら探酒田に参加します。</li> </ul>		
選択できる学生の 所属コース	観光・まちづくりコース、国際教養コース		
選考方法	人数が多いときは、面談あるいは簡単な課題制作により選考します。関連科目の受講も配慮します。 事前相談を歓迎します。 <a href="mailto:nukui@koeki-u.ac.jp">nukui@koeki-u.ac.jp</a>		
成績評価の 方法と基準	A1、1枚に、写真や図を交えてまとめた作品をつくり発表する講評会を行います。成績は、出席と参加活動の様子、講評会での発表、作品により評価します。		
関連科目	ゼミの履修は、観光・まちづくり演習Ⅰの修得を条件とします。また、観光・まちづくり演習ⅡⅢの単位を修得していない人は履修してもらいます。基礎演習b（温井クラス）を履修していない人には、自主的な履修を薦めます。		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	本年度後期は、修士1年生がゼミに参加。来年度も参加できる大学院生がいれば参加してもらう方針です。また、菊地亮哲非常勤講師も参加する予定です。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域		○	○	○

《観光・まちづくりコース》

教員氏名	呉 尚 浩	最大受入人数	5名
テーマ（予定）	「公益社会づくり」のための研究と実践活動：私は、「公益」を「“他者（人々や自然環境）の存在”を尊重し、”他者への思いやり”と”他者とのつながり・調和”を大切に作る心、それにもとづく思考と行動」と捉えています。本演習では、公益社会の実現に向けて、実践活動を伴う研究を行います。		
この専門演習の ねらい・到達目標	自然と共生する地域づくりに焦点をあて、「地域住民による自然の循環の利用と保全」や、「地域住民の主体的な発想や行動を核とし、地域資源を持続可能な形で活かす地域づくり」である「内発的地域づくり」、それを支える「利潤追求目的でもなく、単発的な活動でもない、継続して地域づくりの課題に関わろうとする人々、グループ、もしくはネットワークが生み出す力」である「公益的な民の力」について、実践的研究を行います。公益学的な視点から、社会科学と自然科学、学問と実践の橋渡しとなる学際的研究、市民グループ、小中高や他大学・研究機関、行政などと連携し、地域の人々と共に考えます。なお、ゼミ全体としては以上が中心ですが、可能な場合は、参加者の関心に沿ったテーマで、研究や活動をしていただきます。		
この専門演習の 運営方法	ゼミ全体として設けた、いくつかの研究・活動グループに参加する（複数可）とともに、各自の問題意識に合わせて個人研究テーマを深めます。また、公益自由研究（呉：テーマ「いのちを学ぶ－庄内地域の自然と人々に会おう」と連携したゼミ運営を行います（ゼミ活動ポスターをご覧ください）。 (1) 「島」グループ（キーワード：地域づくり、海ごみ問題、島の自然と文化、離島、三島く佐渡島・粟島・飛島）交流会、飛島・粟島クリーンアップ、トビシマカンゾウ保全、しまかへ、とびしま未来協議会、沖縄） (2) 「森・川・海づくり」グループ（キーワード：森づくり、海岸林保全活動、森林ボランティア、地域の木を使った家づくりと林業、環境公益・自然保全活動一般、コモンズ、環境社会学） (3) 「農と食」グループ（キーワード：環境創造型農業、生物多様性、自然・有機農法、生物と共生する農業、地産地消、農業・食料問題一般、カプトエビ保全水田、地域循環型社会）		
選択できる学生の 所属コース	観光・まちづくりコース（国際教養コース、系外の方も選択できます）		
選考方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず公開ゼミに出席した上で、応募してください（日程は、教務学生課前掲示でお知らせします）。</li> <li>※ 公開ゼミに出席されていない方は、ゼミへの応募をお断りすることがあります。</li> <li>・応募資格は「公益自由研究（呉尚浩）」「環境社会学」「自然（森林）の保全と共生」「中山間・離島地域論」「地域共創と公益」のいずれかを履修していることが条件となります。</li> <li>・応募多数の場合は、面接によって決定します。事前に、気軽にご相談ください。連絡先：<a href="mailto:ngo@koeki-u.ac.jp">ngo@koeki-u.ac.jp</a></li> </ul>		
成績評価の 方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生はゼミ論文、4年生は卒業論文で評価を行います。なお、日頃のゼミへの参加を最重視します。本演習は、知識や理論を詰め込むための場ではなく、いのちを見つめる感受性を高め、私たちの暮らしのあり方と生き方を見つめ直す智恵を学ぶための場です。既成の価値にとらわれない、新しく広く柔らかい心で参加してください。</li> </ul>		
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間・離島地域論、自然（森林）の保全と共生、環境社会学、地域共創と公益、共創の技法など</li> </ul>		
その他 （大学院との関係や 履修上の注意点等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、飛島、粟島、沖縄などで合宿開催（各自のテーマに応じて自由参加、参加費などは公開ゼミで説明）。今までに、佐渡・豊栄（新潟）、網地島・田代島・田尻（宮城）、神島・答志島・鳥羽（三重）、対馬（長崎）、隠岐（島根）、下関・周防大島（山口）、知床（北海道）、愛知（愛知博、佐久島）、松本などで開催。</li> <li>・下記 HP も参考にしてください。 <a href="http://naogoo.cafe.coocan.jp/diary/">http://naogoo.cafe.coocan.jp/diary/</a>（呉ゼミ日記 2105） <a href="http://tobishima.info">http://tobishima.info</a>（とびしま未来協議会）</li> </ul>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○		○	○
	他地域			○	○

《観光・まちづくりコース》

教員氏名	渡 辺 暁 雄	定 員	5 名
テーマ (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学理論を用いた研究</li> <li>・質的調査を用いた研究</li> <li>・生活学・生活文化論——身近な「暮らし」の研究</li> <li>他</li> </ul>		
この専門演習の ねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ⇒まとめ⇒発信する，という学術研究に必要な基本工程・行程を身につけ，「社会学的想像力」を持った人間を育成する。</li> <li>・卒論のみではなく，専門演習Ⅰの時点でも，ある程度まとまった論文を書くことにより，文章作成に関する自信をつける。</li> <li>・自分の研究テーマに関する発表と，それに対するゼミ・メンバーの意見交換により，討論する力を身につける。</li> </ul>		
この専門演習の 運営方法	<p>【3年次】ゼミ決定時～4月：「私にとっての大学・ゼミ」というテーマで作文(3000～4000字)を書いてもらい，4月下旬におこなう「春合宿」(1泊2日)で発表・討論をおこなう。</p> <p>4～6月：社会学に関する基本的な文献に基づく各自の発表・討論をする。</p> <p>6～7月：各自がゼミ論文執筆のために取り上げる「主題」を決定・作成開始し，8月下旬～9月初旬におこなう「夏合宿」(1泊2日)で，中間報告をする。</p> <p>10～1月：各自論文執筆。授業時間に2～3名ずつ，中間報告する。</p> <p>1月下旬：ゼミ論文(20000字以上)提出，2月：発表会合宿をおこなう。</p> <p>【4年次-専門演習Ⅱ】各自のテーマに基づき，卒論執筆(40000字以上)。これに向けて毎回2～3名ずつ発表する(詳細は後日)。2月：ゼミOB・OGを交えて発表会を行う。</p> <p>☆その他，<u>渡辺が関係するフィールドワークやゼミの行事に積極参加・貢献することが求められる。</u></p>		
選択できる学生の 所属コース	観光・まちづくりコース、国際教養コース。 「社会学」の履修者が望ましい。		
選考方法	希望者が定員を超えた場合，面接により選考。 その場合，面接日は追って事務局前での掲示にて連絡する。		
成績評価の 方法と基準	専門演習Ⅰ…上記「ゼミ論文」，「発表」と & 普段のゼミ参加態度で評価を行なう。 もちろん，ゼミへの積極的参加度・貢献度が成績評価の重点項目となる。		
関連科目	「社会学」，「社会調査論」等。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な社会的事象に興味を持ち，おさえきれない知的好奇心の持ち主大募集。</li> <li>・柔軟な発想・対応が求められます(ガンコな人は伸びなやみます)。</li> </ul>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域		○	○	

《観光・まちづくりコース》

教員氏名	松 山 薫	最大受入人数	5 名
テーマ (予定)	<p>「地理的事象の把握・分析とその表現」 この演習の柱は、 ①地理的事象（自然・人文を含めた地域環境）と、人々の生活や産業活動とのかかわりについてテーマを絞って調査・分析する。 ②その内容を、文字情報だけでなく、図表や地図作成によって適切に伝達する技術を学ぶ。 の2点である。①のテーマについては、今年度は砂丘地農業（メロン、大根、ビニール水田など）、鶴岡市の善寶寺、測量遺跡などの見学を実施ないし計画している。担当者の学問的関心は、一般的には忘れられかけられているけれども実は現在と深いつながりがあるような、近過去由来の研究対象（たとえば戦争遺跡、産業・交通遺跡、伝統的建造物と景観形成、戦前の満洲移民関係など）が中心だが、それとはかかわりがなくても上の①に該当するテーマならよしとする。②については、3次元空間の中に存在する地理的事象を文字情報だけで表すことには無理があるので、さまざまな視覚的な情報の扱い方を学ぶ。とくに地図は地理学では大変重要なツールなので、地形図などの既存の地図の種類、入手方法、読図、GIS（地理情報システム）の基礎などをともに学ぶ。</p>		
この専門演習の ねらい・到達目標	上記テーマの①および②が、満足しうる水準の卒業論文として結実すること。		
この専門演習の 運営方法	文献（欧文含む）輪読、地域統計の分析および主題図の作成、巡検（現地見学および実習）、発表		
選択できる学生の 所属コース	観光・まちづくりコース、国際教養コース		
選考方法	面接		
成績評価の 方法と基準	出席、発表、レポート等		
関連科目	人文地理学 a, 人文地理学 b, 自然地理学 a, 自然地理学 b, 世界地誌		
その他 (大学院との関係 や履修上の注意点 等)	<p>テーマの基盤となっている地理学は、伝統的にフィールドワークを得意とする学問であり、受講生にはそれぞれ自分のフィールドを設定し自ら調べて論文を書いてもらうため、ある程度の積極性や好奇心の強さは不可欠である。また、どんな学問分野にも言えることだが、地道で忍耐の要る既存学問の知識体系の習得なくして、オリジナリティーのある研究は遂行し得ないことを理解していること。 あわせて、上記の「関連科目」を全て卒業までに履修することを求める。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の 背景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《情報特別選抜（系外）》

教員氏名	玉 本 英 夫	最大受入人数	5 名
テーマ（予定）	<p>「情報技術を活用した民俗芸能の舞踊の伝承技術の開発」</p> <p>民俗芸能は貴重な無形文化財であるが、急速な高齢化や地方の過疎化に伴う後継者不足により、失伝が避けられないものが多い。そこで、これまで民俗芸能の舞踊の伝承に資するために、情報技術を活用して舞踊の記録・保存技術の開発、舞踊の学習支援システムの開発を行ってきた。本テーマでは、現実に伝承がどのような形でなされてきているかを考察し、これまで開発してきた技術を発展させ、バーチャルな体験による新たな発想の伝承技術の開発を目指す。</p> <p>また、生活を豊かにするために情報技術の活用が考えられる他の分野を調査して、その具体化方法を検討する。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>調査研究・実験を通して、資料収集、実験計画、データ収集、論文作成などの基本的な知識を身に付けると共に、社会生活における情報技術の役目を学ぶ。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>春学期前半 輪講（民俗芸能の伝承に係る資料・論文、情報技術に係る資料・論文）</p> <p>春学期後半 実験・調査 [1]</p> <p>秋学期前半 実験・調査 [2]</p> <p>秋学期中盤 実験・調査 [3]</p> <p>秋学期後半 卒業論文のテーマ選定</p> <p>実験・調査 [1] [2] [3] では、地域の民俗芸能の調査、情報技術の調査・活用法などの中からテーマを自由に選定し、計画を立てて全員で実施する。[1] はゼミ合宿で、[2] [3] は卒論発表会で発表する。その後、各自で関心のあるテーマを探し、そのテーマについて討論を進めて卒業研究につなげる。</p>		
選択できる学生の所属コース	全コース		
選考方法	4名を超えるときは、面接・レポート等により選考を行う		
成績評価の方法と基準	出席状況、課題への取組状況、レポートの提出状況により評価する		
関連科目	情報と社会		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)	<p>文理融合型の研究に興味を持っている方を歓迎します。数学、アルゴリズム、CG制作、プログラム開発などに興味を持っていることが望ましい。</p>		



関する学習 地域に	地域区分	学びの基本 学習	地域の背景 学習	地域課題の 認識	地域課題の 解決
	庄内	○			
	他地域		○	○	○

《情報特別選抜(系外)》

教員氏名	広瀬 雄二	最大受入人数	5名
テーマ (予定)	<p>コンピュータソフトウェア一般</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントなどで人が集まるしかけを考える</li> <li>・ Web アクセシビリティを考えたみんなにやさしいデザイン</li> <li>・ コンピュータでの作業時間を減らすしくみを考える</li> <li>・ 「スマホ」などを介して小中高で楽しく学べるシステムを提案する</li> <li>・ セキュリティを高めるための基本の学習</li> </ul> <p>その他、「自由でオープンであること」を重視したテーマならどんなものでも可。</p>		
この専門演習の ねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画・調査・立案・設計・実装・実験・検証・論述の力をつける。</li> <li>・ 「なぜそうなるのか」を理解できるようにする。</li> <li>・ 自力で調べて解決する力をつける。</li> <li>・ 卒業論文をしっかりと作成できるようにする。</li> </ul>		
この専門演習の 運営方法	<p>共通テーマの学習を輪講形式で、個人テーマ学習を各自のペースで進め卒業研究につなげる。</p> <p>見学は火曜 5,6 限 202 教室まで。</p>		
選択できる学生の 所属コース	すべてのコースから選択可能		
選考方法	<p>やる気のある者、楽しむことに貪欲な者優先で迎える。向き不向きなどについて事前に面談を行なうので、必ず <a href="mailto:yuuji@koeki-u.ac.jp">yuuji@koeki-u.ac.jp</a> 宛に問い合わせること。</p> <p>月曜 5 限以降、金曜午後なら B-3 研究室に直接来ても面談できる可能性が高い。火曜 5,6 限は 201 教室へ。</p> <p>選考が必要な場合は簡単な調査報告書の作成力を見る。情報特別選抜 A あるいは大学院進学を考えている場合はその旨考慮するので相談のこと。</p>		
成績評価の 方法と基準	<p>出席具合と各自に与えられた課題の達成度を評価する。</p> <p>イベントの企画力やサポート力も重視する。</p>		
関連科目	<p>必須ではないが、情報関連の選択科目を履修しておくことが望ましい。</p> <p>履修していない場合は必要科目をできるだけ早い時期に履修すること。</p>		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	<p>コンピュータに使われるのではなく、自分がコンピュータを従えるための知識を身に付けよう。</p> <p><a href="http://roy/~yuuji/seminar/">http://roy/~yuuji/seminar/</a> も参照のこと。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の背 景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《情報特別選抜（系外）》

教員氏名	神 田 直 弥	最大受入人数	5 名
テーマ（予定）	<p>安全人間工学・交通心理学</p> <p>3 年次前期はヒューマンエラーの発生メカニズムや分析方法について理解を深める。その上で、主に道路交通システムを対象に、ヒューマンエラーに起因する事故防止について検討する。</p> <p>3 年次後期以降は各自の興味関心に基づいて別途テーマを設定する（安全人間工学分野・交通心理学分野であれば指導可能）。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<p>実験・調査実習を通して、資料収集、実験計画、データ収集、論文作成などの基本的な知識を身につけるとともに、心理学や人間工学に基づく安全デザインの考え方を修得する。</p>		
この専門演習の運営方法	<p>3 年前期：ヒューマンエラーに関連する書籍（論文）の輪読、ディスカッションと簡単な実験（実験方法の習得が目的）</p> <p>3 年後期：自主研究（前期の内容を踏まえつつ自由にテーマを設定） 卒論テーマの選定（自主研究を拡張）</p> <p>他に、他大学との合同夏合宿（8 月下旬；神奈川）、卒論中間発表会（7 月、12 月）、卒論発表会（1 月）を実施予定。各発表会では専門演習 I のゼミ発表も行う。</p> <p>なお、3 年生の前期の時点で各自のテーマが明確な場合は、最初から各自のテーマについて調査や実験を進める可能性もある。</p>		
選択できる学生の所属コース	全てのコース		
選考方法	志望理由書重視。必要に応じて面接を行う。志望理由書には志望動機と取り組みたいテーマを必ず記載すること。		
成績評価の方法と基準	課題への取り組み状況、授業への参加状況、発表会への参加状況、レポートの提出状況により評価する。		
関連科目	心理学、統計学 a、b、応用統計学		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)	<p>注意点：授業時間以外にデータ処理や実験などの作業を行うことがある。</p> <p>卒論は実験または質問紙調査を必須とする。</p> <p>大学院：室内実験を行う場所が限られるため、精緻なデータを収集することが困難である。それゆえ大学院に進学する際は、進学後も継続可能なテーマを設定することになる。進学を希望する場合は他大学の大学院も紹介するので選択肢に入れると良い。</p>		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の背 景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	○
	他地域		○	○	○

《情報特別選抜（系外）》

教員氏名	西村 まどか	最大受入人数	5名
テーマ（予定）	素粒子物理または応用数学とその応用		
この専門演習の ねらい・到達目標	最先端の研究について知識を得、得た知識について平易なことばや模型を作って説明ができるようになる		
この専門演習の 運営方法	毎回テーマについて調べ、まとめを持ちよって発表しあい、質問応答を重ねて理解を深める。		
選択できる学生の 所属コース	所属系は問わないが情報特別選抜選考に所属する、あるいは所属をあらたに考えている学生		
選考方法	面談による。卒論のテーマや就職など現状での将来の計画を具体的に考えているかどうかを重要視する。		
成績評価の 方法と基準	出席(2割)、年数回開催される情報系発表会での発表内容の準備と発表後の取り組みについて、加点方式で評価する(8割)。		
関連科目	情報特別選抜の科目を4年次までかけてすべて履修することが望ましい。		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	情報系大学院進学を念頭におく。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の背 景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内				○
	他地域				○

《エネルギー特別専攻（系外）》

教員氏名	古 山 隆	最大受入人数	5 名
テーマ（予定）	<p>地域における持続可能な循環型社会の構築に向けて、リサイクル、エネルギーおよび環境保全についての基礎的な研究を行います。</p> <p>1) 地域における各種廃棄物のリサイクル 2) 地域における各種エネルギーの利用</p>		
この専門演習の ねらい・到達目標	<p>再生可能エネルギーの開発・利用や廃棄物のリサイクルに関する知識と技術を習得し、持続可能な循環型社会形成のためのシステムの創出を試みます。</p>		
この専門演習の 運営方法	<p>【専門演習Ⅰ】 エネルギーおよびリサイクルの講義や実験を行い、研究を行うための知識や実験方法を学習します。また、英文の専門書や文献の輪読も行います。</p> <p>【専門演習Ⅱ】 卒業論文のテーマ別に行った実験、およびフィールド調査や文献調査などの結果についての発表を行います。また、テーマによっては、国内の学会における研究成果の発表、さらには、国際学会における英語による発表も行います。</p>		
選択できる学生の 所属コース	全コース対象		
選考方法	<p>以下の①、②及び③の条件を満たしていること。</p> <p>①外国語科目で「英語」を履修している。 ②「エネルギーと社会」、「山形地域論」、「物理学」、「化学」の内、1科目以上を履修している。 ③面談を受けている。</p> <p>※ゼミ配属を希望する人は下記に連絡してください。面談を行います。 E-mail : furuyama@koeki-u.ac.jp</p>		
成績評価の 方法と基準	出席とレポートをもとに総合的に成績を評価します。		
関連科目			
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	フィールド調査や実験のサンプリングなどは夏季休業や春季休業中に行うことがあります。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の背 景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内				
	他地域				

《リベラルアーツ（系外）》

教員氏名	遠山茂樹	最大受入人数	5名
テーマ（予定）	ヨーロッパの歴史と文化		
この専門演習の ねらい・到達目標	西洋の歴史と文化に対する理解を深め、幅広い視野を身につけると同時に、柔軟な思考力の涵養につとめる。		
この専門演習の 運営方法	受講者の発表を中心にすすめていきます。発表内容は、上記のテーマに関するものであれば、ジャンルは問いません。たとえば、食文化、ファッション、神話、旅の歴史、世界遺産、スポーツ史などテーマの選択・設定は自由です。		
選択できる学生の 所属コース	すべてのコース選択可能		
選考方法	希望調査票ならびに面談 (希望者は、希望調査票を提出する前に、toyama@koeki-u.ac.jp までメールを下さい。件名は「ゼミの相談」とし、氏名及び事前相談の第1&第2希望日時を明記して下さい。1～4限（昼休みも可）の時間帯がベストです。直接私の研究室 E-5 までお越しいただいてもかまいません)		
成績評価の 方法と基準	出席、発表、レポートによる総合評価		
関連科目	西洋史（ただし、選考とは無関係）		
その他 (大学院との関係や 履修上の注意点等)	詳しくは廊下に掲示されているゼミポスターをご覧ください。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の背 景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○			
	他地域				

《リベラルアーツ（系外）》

教員氏名	山 本 裕 樹	最大受入人数	5 名
テーマ（予定）	望遠鏡やインターネット望遠鏡を用いた天体観測を行い、それを利用した天体の解析や天文教育について考えます。インターネット望遠鏡とは、インターネットを通じて遠隔地の望遠鏡を使って天体観測を行うシステムです（詳しくは <a href="http://www.kitp.org/">http://www.kitp.org/</a> ）。また、その他の天文学・物理学に関係したテーマも可能です。		
この専門演習のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な視点と考え方を身につける</li> <li>・自然科学について正しい知識を身につける</li> <li>・理論や自分が立てた仮説を、実験や観測を行い検証できるようになる</li> </ul>		
この専門演習の運営方法	はじめは天文学のテキストを使って輪講を行います。その後、各自で研究テーマを設定し、議論・レポート・発表を通じて研究を深めていきます。		
選択できる学生の所属コース	全てのコースで選択可能		
選考方法	意志の確認のため面接を行います。まずは <a href="mailto:yamamoto@koeki-u.ac.jp">yamamoto@koeki-u.ac.jp</a> までメールで連絡をください。		
成績評価の方法と基準	出席、レポート、発表、議論により評価します。		
関連科目	物理学 天文学 a,b		
その他 (大学院との関係や履修上の注意点等)	宇宙や天体観測が好きな人を歓迎します。		

関する学習 地域に	地域区分	学びの 基本学習	地域の背 景学習	地域課題 の認識	地域課題 の解決
	庄内	○	○	○	
	他地域		○		

《リベラルアーツ（系外）》

教員氏名	白旗希実子	最大受入人数	5名
テーマ（予定）	<p>“教育”という営みに含まれる“社会”的な面に目を向けたり、“教育と社会”の関係に着目する学問である「教育社会学」について学ぶ。その上で、教育と社会をめぐる問題を社会学的視点から分析する。本ゼミでは、特に、欧米との比較軸を用いながら、学校教育、家庭教育、専門職の教育、生涯学習について取り上げる。あわせて、調査方法論（質的調査法、歴史研究など）について学び、庄内地域においてフィールドワークを実施する。</p>		
この専門演習のねらい・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育社会学の文献を読み、教育と社会の関係性について考えることができる。</li> <li>・海外の教育制度を学ぶことで、日本の教育制度を客観的な視点から見直す。</li> <li>・インタビュー手法など、様々な調査方法について理解し使用することができる。</li> <li>・文献の探し方、論文・著書を読む視点を身につける。</li> </ul>		
この専門演習の運営方法	<p>&lt;専門演習Ⅰ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いの立て方、文献の探し方を学ぶ。その上で、各自が関心のある専門的な職業に関する論文・著書を読み、レポートにまとめて発表する。</li> <li>・国内外の文献通読：論文・著書を事前に配布→担当者がレジュメ作成→演習のはじめにB4 1枚に概要をまとめたものを発表→内容について全員で討議する。</li> <li>・インタビューの手法に関する文献を輪読し、インタビュー計画を立てる。</li> </ul> <p>&lt;専門演習Ⅱ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に個別指導。適宜ゼミの中で進捗状況報告を行い、論文作成をすすめる。</li> </ul>		
選択できる学生の所属コース	すべてのコース		
選考方法	<p>希望者は必ず見学をすること。演習希望者は、演習見学後、①本ゼミを選択する理由、②本ゼミを受講するとしたら、やってみたいテーマとその概要を1600字～2000字程度にまとめたうえで、個別面談を受けること（原則、火曜3限のオフィスアワーに実施、希望者はshirahata@koeki-u.ac.jpまで連絡すること）。</p>		
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門演習Ⅰ 出席状況（欠席の場合、減点）、議論への参加度（30%）、休暇期間中の課題の達成状況（30%）、個人の発表報告（頻度、内容）（40%）。</li> <li>・専門演習Ⅱ レポート・卒業論文などにより総合的に評価する。</li> </ul>		
関連科目	「教育原理」、「教育学」、「生涯学習概論」		
その他 （大学院との関係や履修上の注意点等）	<p>関連科目を受講していることが望ましい。他者の言葉に耳を傾けることができる方、積極的に議論に参加することができる方を歓迎する。 大学院進学希望者は申し出ること。</p>		